Bridge Asia Japan

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2010年1月1日～12月31日

2010年度

2011年6月30日　発刊

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

2010年度 年次報告書

（2010年1月1日～12月31日）

もくじ

2010年を振り返って …… 3
BAJの3つの目標

Ⅰ ミャンマー事業報告 …… 4
各事務所の活動の成果
1 ラカイン州北部地域開発 …… 6
（1）車両など機械類の修理・整備
（2）インフラストラクチャーの整備
（3）コミュニティ社会開発（CSDP） …… 7
（4）シトウェ地域開発
2 中央乾燥地域　生活用水供給事業 …… 8
（1）新規深井戸掘削事業
（2）深井戸の修繕 …… 9
（3）井戸の長期的維持管理
（4）ローカルメンテナンスチームと人材育成
（5）学校建設・その他
3 南東国境地域の開発 …… 10
（1）水供給施設の建設など
（2）避難民村の家屋建設
4 イラワジデルタ・サイクロン被災地域復興支援 …… 11
（1）学校校舎の再建・修繕
（2）防災教育

Ⅱ ベトナム事業報告 …… 12
各事務所の活動の成果
1 ホーチミン市
（1）障害児者の支援
（2）アンカイン地区・タインミーロイ地区生活改善
（3）グエン・ヴァントー中学校での環境教育 …… 15
（4）子ども教室（ばじこ）の運営
2 フエ市生活改善 …… 16
（1）教育支援
（2）環境教育活動
3 クイニョン市環境教育 …… 17
4 環境活動の発表会

Ⅲ 東京本部活動報告 …… 18
2010年BAJの動き
1 資金の調達 …… 19
（1）寄付・募金・会費の拡大
（2）助成金・補助金
（3）緊急救援募金
2 広報活動 …… 20
（1）情報の発信
（2）報告会・講演・イベントなど
（3）キャンペーン
コラム：支援者対応についてのアンケート結果 …… 21
3 団体の運営 …… 22
（1）国別の計画策定
（2）ネットワーク
（3）人材育成
コラム：多様なパートナーシップのかたち …… 23

団体概要・名簿・組織図 …… 24
BAJの活動年表 …… 25

2010年度会計報告 …… 26
活動計算書
事業別損益の状況
貸借対照表 …… 27

2010年を振り返って

2010年の報告書をお届けいたします。これもひとえに皆さまからのご支援とご協力の賜物と、心から感謝を申し上げます。

2月、ミャンマーの水供給事業にとって大切な人材であった技術部長の木村が急逝し、BAJにとっては乾燥地域での活動に大きな影響がありました。ローカルスタッフの育成と、次代を担う人材の確保という大きな課題が残されています。

また11月に実施されたミャンマー政府の総選挙により、許可申請などに大きな支障が出ており、苦しい事業運営が2011年も続いています。

ベトナムでは、従来の活動地域で住民の移転が進み、移転先での活動が始まっています。子どもたちや地域の行政機関と協力して順調に活動を進めていますが、組織体制などでこちらも課題があります。

東京では広報に力を注ぎ、新しい支援者の開拓や寄付の拡大に取り組み、その成果が少しずつあらわれています。今後は、東京での事業活動による資金調達を進めていきます。

2011年も、心をこめて活動を進めております。引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

根本悦子・BAJ代表理事

Three aims of BAJ

BAJの3つの目標

私たちはいま、貧困、難民、環境破壊など、国境を越えた世界規模の問題に直面しています。BAJは、こうした解決が不可能と思われる問題に対し、地域から考え、地域で行動を始めることで解決の道を探ります。

とくに日本と関係の深いアジアの人々と連帯しながら、健康で幸福な生活につながる環境を整備し、アジアの人々との共生を実現するために、政治体制や宗教、言語、文化の違いを越えて、相互理解の架け橋となるよう願いながら、3つの目標を定め、活動を進めています。

❶ 技術習得や能力強化の機会を提供

帰還難民や国内避難民、障害を持つ人や教育の機会に恵まれなかった青年、雇用機会の少ない女性など貧困層を対象に、地域にある適正技術や伝統技術を活用し、新しい技術も取り入れながら、技術習得や能力強化の機会を提供します。

❷ 収入向上の支援

習得した技術を収入に結びつけるため、必要な知識や具体的な場を提供し、自立を支援します。

❸ 地域発展のための環境基盤整備

地域経済を活性化させるための基盤となる学校や橋、井戸の建設など、地域住民の参加を得ながら進めます。実際の建設では、住民に“オン・ザ・ジョブ”で実地訓練を通して事業を進め、保守や管理を地域の人たちが担えるように支援します。

I

海外支援活動報告

ミャンマー事業報告

ミャンマーでは、2010年3月頃から政府の高官による政党や、政府と和平を結んだ少数民族の政党が結成され、政府に登録の承認を受けて活動を始めていました。総選挙は11月7日に予定通り行なわれ、大きな混乱もなく終わったように見受けられました。2011年2月より首都ネピドーでは国民会議が開催され、今後の政府の体制や法律などが審議され、発表されています。2011年5月現在、新たなNGOスタッフへの滞在ビザなどの発給は大幅に滞っている状態で、今後NGOへの対応がどのように変わっていくのか、静観している状況が続いています。

2010年は大きな災害が二度にわたってラカイン州を襲いました。雨季に入って降り続いた大雨は、6月13日に大規模な洪水を引き起こし、マウンドー、ブティドンで28,865世帯（182,672人）、死者数83人が被災しました。橋や道路が壊れて輸送路が断たれたために物価が高騰し、さらに国際機関やNGOも大きな影響を受けました。

10月22日には中央沿岸地域にサイクロン「ギリ」が襲来し、約26万人の被災者と2万棟の住宅が全壊しました。BAJは現地調査を行なって救援物資の配給と、12月からは被災者のボートやトラクターエンジンの修理を移動しながら行うメカニカルモバイルワークショップを実施し、被災者の早期の生計復帰を進めました。

MYANMA

各事務所の活動の成果

マウンドー技術センター

■ ラカイン州北部地域（1995年～2010年）

修理・整備した車両数	2597台
開催したテクニカル・トレーニングの数	46回
建設した橋の本数	272本
建設した学校数	59校
開催した、女性のための生活改善プロジェクト数（裁縫訓練、公衆衛生など）	147回
シトウェ　技術トレーニング学校（～2007年）	7期、549人

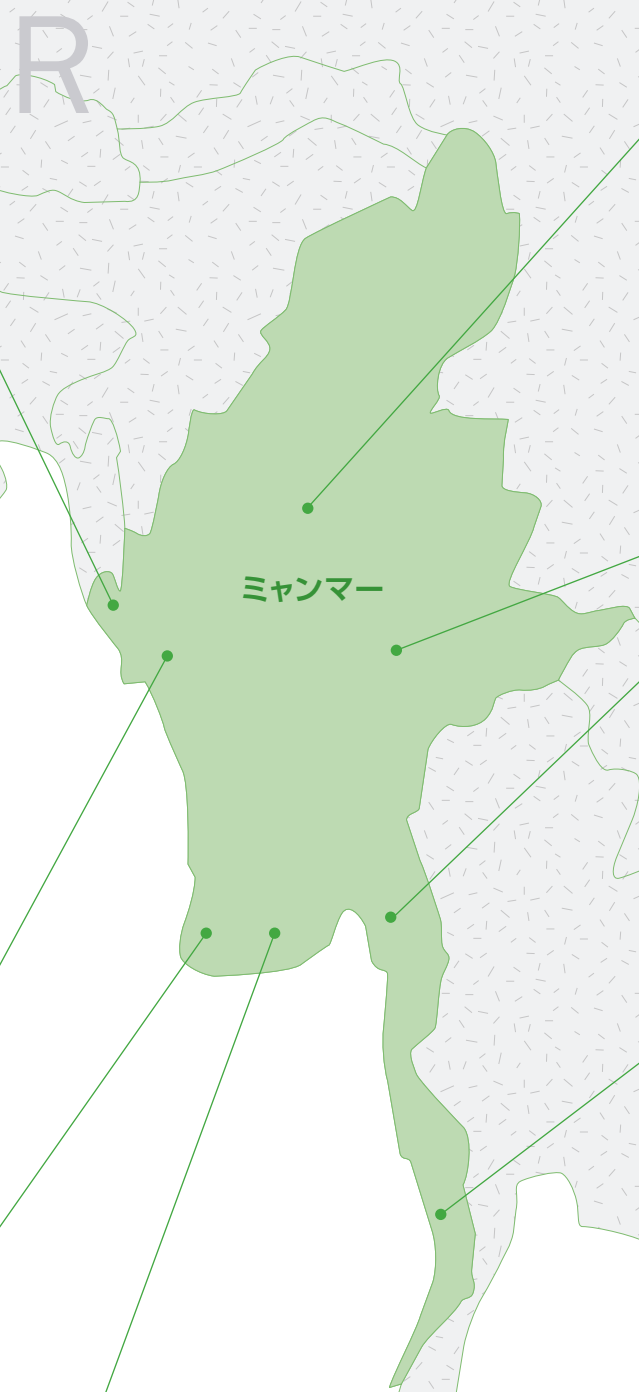
シトウェ連絡事務所

ラプタ事務所

■ デルタ地帯（2008年～2010年）

建設した学校数	34校
修繕した学校数	27校
防災教育を開催した村の数	71か村

ヤンゴン事務所



チャウパドン事務所

■ 中央乾燥地域（1999年～2010年）

掘削した深井戸の数	108本
深井戸を修繕した回数	286回
開催した技術トレーニングの回数	19回
開催した水と衛生ワークショップの回数	36回
開催した水管理委員会の情報共有ワークショップの回数	14回

トングー事務所

モーラミャイン事務所

■ 南東国境地帯（2004年～2010年）

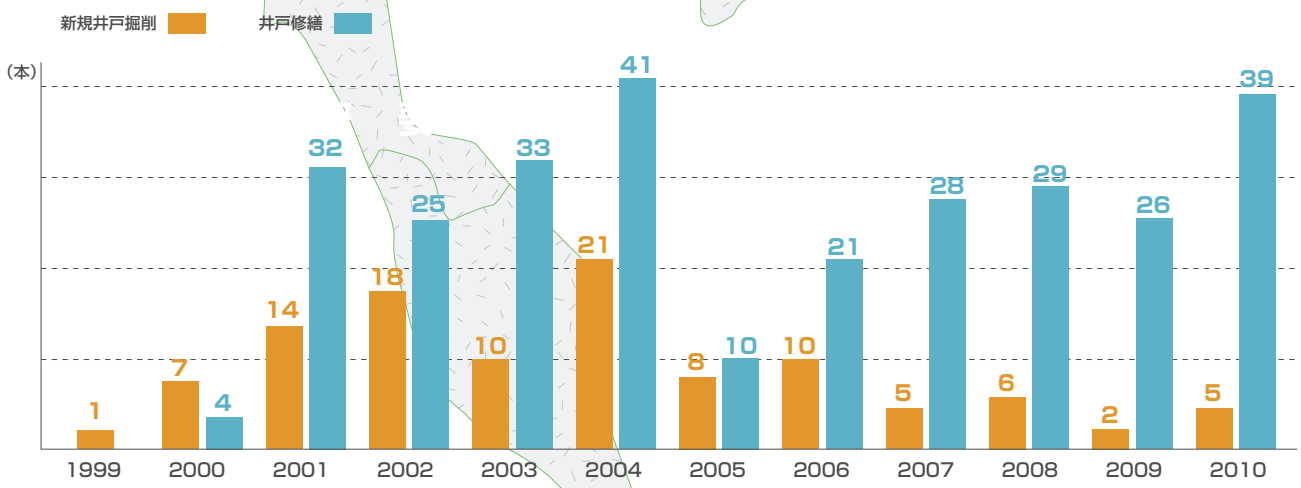
建設した管井戸の数	213本
建設した開放井戸の数	42本
設置したパイプライン給水施設	35ヶ所
建設した国内避難民を対象としたシェルター数	253ヶ所

ベイ事務所

■ その他

水募金 現在までの募金総額（2004年～）	108,634,600円
女性の生活改善募金 現在までの募金総額（2008年～）	4,257,945円
サイクロン（ナルギス）復興支援募金 現在までの募金総額（2008年～）	174,599,025円

■ 中央乾燥地域での水供給施設に関する実績



1 ラカイン州北部地域開発

この地域は毎年のように大雨やサイクロンにみまわれ、またマラリアや天然痘などの多発地帯でもあります。この地域に対しては、まだまだ支援が必要だと痛感していますが、事業を進めていくうえで必要な許可の問題など支援がスムーズに届かない地域でもあります。

(1)車両など機械類の修理・整備

【資金:国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、GRET(フランスNGO)】

マウンドーでは、帰還民の受入れを進めるUNHCRをはじめ、UNDP(国連開発計画)やWFP(世界食糧計画)などの国連機関や、AZG(オランダ)、GRET(フランス)など国際NGOが活動しています。BAJはこうした団体が活動するために必要な車両や機械類の整備や修理、現地で入手できる劣悪な燃料のろ過サービスを行って、各団体の活動をサポートしています。

2010年は、修理・メンテナンスを781回、ろ過サービスは95,468ガロン行いました。

2009年に引き続き、地元の青年を対象に「単気筒エンジン修理・整備基礎コース」「溶接技術基礎コース」「自動車修理・整備基礎コース」「自動二輪車修理・整備基礎コース」の技術訓練コースを実施しました。マウンドー、ブティドン、ラティドンの村で計7回にわたって開催し、100名の青年が修了しました。

これまでに技術訓練コースを修了した約500名の卒業生のなかから61名を対象に、聞き取り調査を行い、技術訓練が雇用や収入向上にどのような影響があったのか「インパクト調査」を実施しました。

エンジンパーツを掃除する訓練生

(2)インフラストラクチャーの整備

【資金:UNHCR】

帰還民の人たちを地域に戻し、安全で安心して生活できるようにするためには、環境の整備が必要です。この地域は雨季になると、河川の氾濫や土砂崩れによる道路の寸断でたびたび孤立してしまい、物価の高騰に悩まされ、病人の搬送や通学の移動も思うにまかせません。

この地域に対するインフラ整備は、人々の生活を支えるとともに人道支援の一環でもあると考えています。

BAJでは橋や歩行橋を建設し、教育環境を整えるため学校校舎の建設を行ってきました。橋ができたことで近隣の村からも人が集まるようになり、地域の経済活動が活発化した村も出てきています。

2010年に実施した主なインフラ整備としては、マウンドー南のシュウェザー村に全長91メートルの橋を完成させました。またマウンドー北には計8本の橋を建設しています。

6月末には、洪水で損壊した橋について4本の修復工事を実施し、8月にはマウンドーとブティドン、ラティドンで6本の歩行橋を新たに建設しました。

完成間近のシュウェザー橋

(3)コミュニティ社会開発(CSDP)

【資金:三井住友銀行ボランティア基金、WFP、ACF、UNHCR、自己資金】

1999年に「女性の自立支援プログラム」として始まった裁縫技術訓練は、さまざまに内容を変えながら、これまで継続して実施してきました。

2010年は社会開発プログラムとして①技術訓練・教育、②収入向上、③マイクロクレジット・自助努力支援、の3つのプログラムで進めました。

■3つのプログラム

担当チーム名	プロジェクト名	事業内容	事業期間	事業実施地域	成　果
技術訓練 / 教育 (TE)	上級裁縫訓練コース	裁縫技術(上級)、識字、保健衛生トレーニング+お菓子作り 2クラス	2010年1月～5月	BAJマウンドー事務所、ブティドン・ダウンタウン	2コース、女性参加者49人(過去の訓練卒業生含む)
	初級機織訓練コース	機織技術トレーニング 2クラス	2010年9月27日～12月31日	BAJマウンドー事務所	2コース、女性参加者39人
	ACF-BAJミシン技術トレーニング	裁縫技術(初級)、識字トレーニング 5クラス	2010年3月1日～2011年2月28日	マウンドー、ブティドン	5コース、女性参加者102人
	Vulnerable Group Development Project (生活弱者層の生活改善事業)	村落での裁縫技術(初級)、識字、保健衛生トレーニング 12クラス	2010年6月1日～12月31日	マウンドー南部、マウンドー北部	12コース実施、女性参加者293人
収入向上(IG)	IGプロジェクト (女性の収入向上プロジェクト)	裁縫製品、制作、販売による女性の収入向上事業	2010年1月1日～12月31日	BAJマウンドー事務所	IGコース参加者20名 月平均収入(個人) 約15,500チャット
自助努力支援(SR)	Self Reliance Group (セルフ・リライアンス・グループ活動)	グループ内での貯金とローン、共有ミシン、識字教室等による相互扶助活動	2010年10月1日～2011年3月31日	マウンドー、ブティドン	22グループ、参加メンバー計164人
	Sun Rays Project (サン・レイズ プロジェクト)	障害者や身寄りのない老人の介護サポート事業	2009年10月1日～2010年3月31日	マウンドー周辺の2か村	直接受益者20人へ介護、物資支援の提供

(4)シトウェ地域開発

【資金:プランインターナショナル、自己資金】

マウンドーへの中継地点としてシトウェ事務所に2名の実務スタッフをおいて、ラカイン州北部で実施している各事業に対する物資調達の支援や、州政府機関との交渉や調整を進めました。

また、6月に発生したサイクロン「ギリ」の被災地域に対し、緊急支援のための被災状況の調査を行い、緊急救援として被災した村に対し食用油、トウガラシなど村人からのニーズが高い食品を袋詰めにしたセットや、防水シートを3回にわたり配布しました。

その後、魚の漁で生計を立てている多くの漁民の生計を立て直すために、高潮や洪水で破損したボートのエンジンや機械類の修理を行うモバイルワークショップの事業を実施しました。場所は、一番被害の大きかった地域のひとつである東パロンガー島南部のガラバーチャイン村を本拠に、隣接するガリーチャイ村と合わせて約40台のエンジンを修理しました。

サイクロン・ギリの緊急救援では、ミャンマー政府の報道が少なかったため、日本での寄付集めに大変苦労しました。その経験から検討した結果、2011年4月にジャパン・プラットフォーム(JPF)に加入することを決定し、よりスムーズな対応ができるように準備を進めました。

シトウェ事務所のスタッフにより物資の配布を行った

2 中央乾燥地域 生活用水供給事業

マンダレー管区の中央乾燥地域は、バガン王朝のパゴダ遺跡群がある観光地ですが、場所によっては年間降雨量500～600ミリメートルという乾燥地域で、村人は生活に必要な水を得るために多くの時間を割かなければなりません。

(1)新規深井戸掘削事業

【資金:日本NGO連携無償協力資金(NAG)、日本大使館草の根無償資金協力(GGA)、ワタベウェディング株式会社、個人寄付、自己資金】

2010年も深井戸6本の掘削建設を順調に進めました。とくにワタベウェディング株式会社会長の渡部様とBAJスタッフだった故木村部長のご遺族さまからの寄付により、2本の深井戸を建設することができました。

■2010年に実施した深井戸建設

No	管区・郡名	村 名	掘削～貯水タンク建設	資 金
1	マグウェ管区 チャウ郡	カンサン村	2010年3月21日～ 2010年8月31日 深さ520feet 揚水量毎時2800ガロン	日本大使館草の 根無償資金協力
2	マンダレー管区 ニャンウー郡	タヤウィンドウ村	2010年8月11日～ 2010年11月26日 深さ780feet 揚水量毎時2800ガロン	ワタベウェディング(株)
3	マグウェ管区 チャウ郡	タヤゴン村	2009年11月22日～ 2010年7月8日 深さ870feet 揚水量毎時1400ガロン	日本NGO 連携無償資金協力
4	マンダレー管区 タウンタ郡	インジンター村	2010年6月13日～ 2010年9月30日 深さ935feet 揚水量毎時1800ガロン	日本NGO 連携無償資金協力
5	マンダレー管区 ニャンウー郡	インダイン村	2010年9月12日～ 2011年2月1日 深さ675feet 揚水量毎時3600ガロン	故木村信夫様 メモリアル井戸
6	マンダレー管区 ニャンウー郡	タウンバ村	2010年11月24日～ 2011年2月 深さ715feet 揚水量毎時2400ガロン	ワタベウェディング(株) 会長個人

掘削機を使って、井戸を掘り進める

最初は泥交じりの水だが、徐々に透明な水になる

水脈がどこにあり、どのような成分構成になっているのかをチェック

(2)深井戸の修繕

【資金:日本NGO連携無償資金協力、ワタベウェディング株式会社、自己資金】

1980年代に「国際水の10年」として世界中で水事業が展開され、ミャンマー中央乾燥地域でもユニセフの援助で3000本以上の深井戸が建設されました。しかし、1988年に起きた体制に関わる事件をきっかけに、海外からの支援がすべてストップし、この地域の井戸の維持が困難となり故障した井戸が放棄されていました。

BAJは、こうした井戸の修繕も行いながら、ボアホールカメラなど機材を投入して修繕のためのノウハウを蓄積してきており、修繕の要望も増えてきています。2010年は28か村で井戸の修繕を実施しました。

(3)井戸の長期的維持管理

【資金:日本NGO連携無償資金協力、ワタベウェディング株式会社、自己資金】

井戸を整備しながら長期にわたって使っていくためには、村にエンジン操作者がいて整備しながら簡単な修理ができるように、村の水管理委員会やエンジン操作者を対象に、維持管理に必要な技術や運営手法の研修を実施してきました。

2010年は具体的に、水管理委員会のマネジメントを支援するためのワークショップ、衛生意識の向上を図るワークショップや、40か村から77人のエンジン操作者を対象に技術研修を実施しました。また、43か村から集まった村の代表者100人を対象に、水管理委員会情報共有ワークショップを実施しました。

技術的な研修が必要と判断した場合、適切な専門家を現地に派遣して、機材のメンテナンスやトレーニングを行いました。

過去に井戸を掘削／修繕した村から集まった代表者たちが情報交換を行った

(4)ローカルメンテナンスチームと人材育成

【資金:日本NGO連携無償資金協力、ワタベウェディング株式会社、自己資金】

2003年にBAJが実施した技術訓練コースに参加した村のエンジンポンプ操作者のなかから、意欲的な人を選んでローカルメンテナンスチームを組織しました。2008年にはさらに技術的な強化を行い、実際に村からの注文を受けて村の井戸の整備と修繕に貢献するようになっています。

2010年は、BAJの修繕チームとの役割分担を明確にして、技術向上を図りながら、この地域全体の水供給をある程度担えるようになることを目指しました。そのため集中的な研修を実施してスキルアップを図りながら、活動を継続しています。

2010年は計37回出動して各村の井戸の整備や修繕を行いました。

ミーティングを行うローカルメンテナンスチームメンバー

(5)学校建設その他

【資金:ワタベウェディング株式会社、個人寄付、自己資金】

井戸を設置した学校側から校舎の建設依頼があり、ワタベウェディング株式会社の社員様や渡部会長のご寄付により、9月にタウンシェ村小学校が完成しました。また、小出貴志子様からのご寄付で、モンダイン村小学校を5月に完成し、この地域に計2校の小学校校舎を建設しました。

BAJのチャウパドン事務所は、毎日のように村人の訪問を受け、またカウンターパートであるDDA(ミャンマー政府の国境地域開発省)と協議しながら事業を進めています。井戸の建設や修繕のほかにも、地下水調査や、電気検層といって井戸孔の帯水槽を調べる調査などの依頼があります。BAJでは、可能な限りこうした依頼に対応しました。

3 南東国境地域の開発

タイと国境を接するこの地域では、タイ側に多くの難民が流出しています。BAJは2004年にUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の要請で、全長2000キロメートルに及ぶこの地域に3か所の事務所を設置し、水供給事業を開始しました。この地域の地層は複雑で、水を村人に届けるためにさまざまな工夫をしています。

2010年は、新たに14ヵ所の水供給施設の建設、既存の水供給施設23か所の修繕と、施設の地域住民を対象に施設の維持管理と衛生知識の講習会を8か所で実施しました。

(1)水供給施設の建設など

【資金:UNHCR】

❶ 新しい水供給施設の建設

カレン州の4か村、モン州の6か村、タニンダリ管区の4か村で、管井戸に揚水ポンプを設置してパイプラインによる給水や、湧水地を活用して、村の学校や保健所など公共的な施設に水供給施設を設置しました。

■新規の水供給施設の建設実績

地 区	タウンシップ	村	現 況
カレン州	タンダウン	タテイーゴン カレイタ	▶管井戸(5か所)から揚水ポンプとパイプラインで村へ給水 ▶湧水地からパイプラインで村へ給水
	ラインブエ	カバリ タバウン → カバリ	▶管井戸建設中 ▶近日に開始予定
モン州	チェイマロー	パゾンチュエチャンス カダー アラゴン バヤピャウ	▶開放井戸+学校へパイプライン ▶管井戸+貯水タンク+保健所へパイプライン ▶管井戸+貯水タンク+保健所・学校へパイプライン ▶管井戸建設中
	タトン	ドゥインセイ	▶管井戸+貯水タンク+保健所・学校へパイプライン
	イェ	ハンカン	▶湧水地からパイプラインを設置(建設中)
タニンダリ管区	パロー	ザーティウィン	▶湧水地からパイプラインを1マイル設置
	ベイ	アテパピィン バエマディ	▶管井戸(130フィート)エアーコンプレッサーで揚水 ▶管井戸(135フィート)マーク IIポンプで揚水
	テイェチャウン	ベイタケ	▶管井戸(130フィート)マーク IIポンプで揚水

❷ 地下水脈調査(GP)

電気探査による地層の調査と、ボアホールカメラを使った電気検層による地下水脈調査を48か所で実施しました。

❸ 井戸の修繕

村の人たちに学んでもらいながら、モン州、カレン州、タニンダリ管区の23か所で、小学校や公共施設、診療所などで故障している井戸の点検と修繕を行いました。その内容は、パーツの交換や井戸洗浄、フィルタータンクの設置、電動揚水ポンプの修理、パイプラインの設置、水中ポンプの修理、鉄分除去装置の建設など、多岐にわたりました。

❹ 維持管理と衛生知識の講習会

井戸を設置するだけではなく、村の人たちを対象に簡単な揚水ポンプの操作やメンテナンスの方法、村の水管理委員会の役割の説明、水をめぐる衛生知識の講習などを、8か所の村で実施しました。

村での講習会実施については、州行政機関が住民集会を禁止しているため、ひとつの村につき1日しか充てることができません。さらに村は広い地域に分散しているため、アクセスが困難な状況があります。今後に向けては、給水施設の維持管理や衛生講習を何とか工夫して充実させていくことを考えています。

(2)避難民村の家屋建設

【資金:UNHCR】

タイと国境を接するタニンダリ管区には少数民族による紛争地域があり、逃れてきた国内避難民が多数存在します。UNHCRの要請で、避難民のための仮設家屋の建設を行いました。7つの村に対し、竹とニッパヤシを利用した高床式家屋を103棟建設しました。

この地域での活動は治安悪化により、しばしば活動をストップせざるを得ない状況があるため安全管理には十分注意をしながら事業を進めています。

4 イラワジデルタ・サイクロン被災地域復興支援

2008年5月2日～3日の未明に、南部デルタ地帯に襲来したサイクロン「ナルギス」の被災地域について、BAJは緊急救援物資の配給とモバイルワークショップを実施したあと、皆さまからの寄付やプランインターナショナル、日本NGO連携無償資金協力などの資金で、2008年5月から学校校舎の建設を実施し、これまでに64校の再建・修復を完了しています。

また、これまでに再建・修繕した学校校舎のある村を中心に、必要に応じて防災教育を実施しました。

(1)学校校舎の再建・修繕

【資金：プラン・インターナショナル、日本NGO連携無償資金協力、日本からの緊急救援支援寄付】

モールミャインジュン・タウンシップで第3フェーズ(2009年8月～ 2010年6月末)として再建・修繕した校舎と、ラブタ・タウンシップで第4フェーズ(2010年7月～2011年11月)として再建・修繕した学校校舎は以下の通りです。

学校名	村 名	生徒数	教師	支援	資金
チャーホーム小学校	チャーホーム	121	3	再建	プラン
マベイ中学校	マベイ	274	6	再建	プラン
タタク小学校(幼稚部校舎)	チャーホム	54	2	再建	プラン
メイザグ中学校	マベイ	100	4	再建	プラン
ピンタウン小学校	タコンタインチョンワー	88	3	再建	プラン
ジーピンチャウン	クトー	355	12	再建	プラン
タピャイチャウン小学校	タピャイチャウン	82	2	修繕	プラン
トネクワチュンチョンラム中学校	チョンラムジ	221	5	修繕	プラン
チャカトパインヨ小学校	ボカミドク	115	4	修繕	プラン
イェートゥインゴン中学校(付属)	イェートゥインゴン	210	6	再建	NAG
ミェッタリンゴン高校(付属)	ミェッタリンゴン	601	15	再建	NAG
セインパン中学校(付属)	シャウチャウン	341	8	再建	NAG
カンゾ中学校(付属)	カンゾ	126	6	修繕	日本寄付
ティヤリ中学校(付属)	ティヤリ	328	9	修繕	日本寄付
チュンテイク中学校(付属)	チュンテイク	244	6	修繕	日本寄付
カニンカイン中学校	ピンサル小区ルワザ	243	8	再建	プラン
ゴンニンタン中学校	ミドルアイランド小区ナゴン	138	6	再建	プラン
テピャイセイク中学校	ミドルアイランド小区カンチュアン	178	6	再建	プラン
クントー小学校	ラブタ小区ティンボンクイン	102	3	再建	プラン

日本NGO連携無償資金協力により実施予定であった6校の学校校舎の再建・修繕事業については、カウンターパートであるDDAからの許可はあるものの、教育局の許可が必要とした判断があり、現在申請をストップした状態です。

(2)防災教育

【資金：プラン・インターナショナル】

すごろくを使って防災について学ぶ

自分たちが住む地域をまわって地図を作り、危ない場所を認識する

2009年8月以降に学校校舎を再建・修復した村を対象に、学校の教師、生徒、親を巻き込んだ形で防災教育を行いました。プログラムの内容は、1日～ 3日をかけて教室では台風のメカニズムや地震や津波などについてビデオを使って学習したり、また村の探検として、学校、寺院、川など実際に歩きながら、危険な個所や安全な場所を確認し、自分たちの地域の地図を作成しました。さらに必要に応じて避難訓練も行いました。

防災教育は、ラブタ・タウンシップの8校、モールミャインジュン・タウンシップの34校で実施しました。

II

海外支援活動報告
ベトナム事業報告

1982年からベトナムの戦後復興の支援を継続し、1990年代に入ってホーチミン市に連絡員をおいて、障害児の学校や孤児の支援を行なってきましたが、2002年からはホーチミン市に駐在員を派遣し、本格的な支援活動を開始しました。現在は、ホーチミン市に加え、フエ市、クイニョン市と活動地を増やし、活動内容も障害児者支援から環境活動まで多岐にわたっています。

ホーチミン市アンカイン地区の移転が進み、数年前から計画されていたフエ市フービン地区水上生活地域の移転事業が本格的に始まり、2010年1月にトゥアティエンフエ省内のフオンソー地区とフーマウ地区の2か所の集合住宅に移転しました。フービン地区で環境活動に参加していた子どもたちが中心となって、両地区でゴミ分別活動や補習クラス・絵画クラスを始めたので、他地区から移転してきた子どもたちも参加して、勉強や活動を通した新しい子どもたちのネットワークができています。

三井物産環境基金事業として2008年からフエ市、ホーチミン市、クイニョン市の3都市の6地区で環境学習と実践活動を進めてきましたが、2010年9月に2年度を終了して10月から最終年度を開始しました。

ホーチミン市で進めている「ばじこ教室」では、6月～ 8月の夏休み期間中は終日授業を行い、公園での植物観察や池の水や生物の調査など屋外での活動を多く取り入れました。また、ホーチミン市内の私立ゴイサオ学校からの要請で、9月からは同学校の中等部で環境学習や科学工作活動を始めました。

フエ連絡事務所

■ フエ（2002年～2010年）

現在までに授与した奨学金総額（VND）
貧困地域の環境活動に参加した子ども数 （うち、28名が中学卒業・高校入学の学年に相当する）
貧困地域の環境教育に参加した子で、中学を卒業した人数
貧困地域の環境教育に参加した子で、高校に入学した人数
フエ市の学校で環境教育を受けた生徒数*

*フービン小学校（希望児童）、フィントゥックハン中学校（希望児童）、ファムゴックタック中学校（希望児童）、フオンロン小学校（20クラス）、グェンヴァンチョイ中学校（2クラス）、グェンティミンカイ中学校（2クラス）で行った。

クイニョン連絡所

■ クイニョン（2002年～2010年）

貧困地域の環境活動に参加した子ども数 （うち、2名が中学卒業・高校入学の学年に相当する）
貧困地域の環境教育に参加した子で、中学を卒業した人数
貧困地域の環境教育に参加した子で、高校に入学した人数

ホーチミン連絡事務所

■ ホーチミン（2002年～2010年）

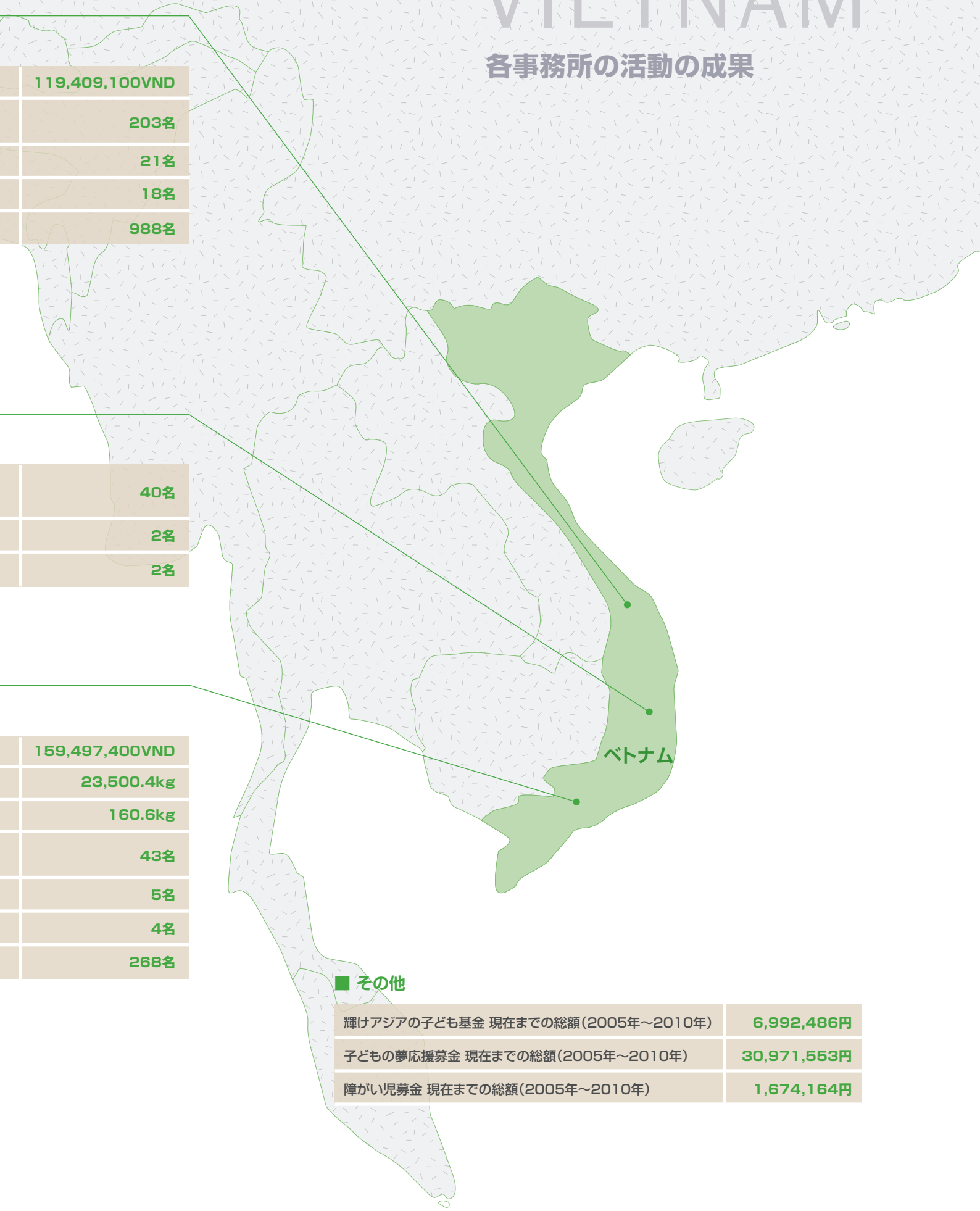
ホーチミンで現在までに授与した奨学金総額（VND）
現在までのビニール袋回収量
ビニール袋以外の有価物回収量**
貧困地域の環境活動に参加した地元の子ども数 （うち、5名が中学卒業・高校入学の学年に相当する）
貧困地域の環境教育に参加した子で、中学を卒業した人数
貧困地域の環境教育に参加した子で、高校に入学した人数
ホーチミン市の学校で環境教育を受けた生徒数***

**有価物には、プラスチックボトル、鉄くずなどの金属、紙類、空き缶などが含まれる。業者などに販売することができる。アンカイン地区からタインミーロイ地区に移転して以降の実績。

***グェンヴァントー中学校（希望児童）、ゴイサオ学校（3クラス）、ばじこ教室（4クラス）で行った。

VIETNAM

各事務所の活動の成果



	119,409,100VND
	203名
	21名
	18名
	988名

	40名
	2名
	2名

	159,497,400VND
	23,500.4kg
	160.6kg
	43名
	5名
	4名
	268名

■ その他

輝けアジアの子ども基金 現在までの総額(2005年～2010年)	6,992,486円
子どもの夢応援募金 現在までの総額(2005年～2010年)	30,971,553円
障がい児募金 現在までの総額(2005年～2010年)	1,674,164円

1 ホーチミン市

戦後復興を進めていたベトナムのホーチミン市で、障害児の支援を行っていたベトナムのグループと出会ったことがきっかけで、BAJ が国際協力の活動を開始した原点ともいえる都市です。駐在員を置いて本格的な活動を開始したのは 2002 年のことでした。

(1)障害児者の支援

【資金:キヤノン㈱、輝けアジアの子ども基金】

1998年から5年計画で開始した「ベトナムの視覚障害者を対象にしたマッサージセミナー」を通じて知り合い、2002年より支援してきた全寮制のティエンアン盲学校からの報告によれば、生徒たちは高校・大学と進学して家庭をもつようになった生徒もおり、今後は地域で生活するためのトレーニングが必要になっています。

7月1日にホーチミン市で子どもたちによる環境活動発表会を開催し、ティエンアン盲学校から10名の生徒と3名の教員が参加し、楽器の演奏や環境の歌を披露しました。

8月後半には、輝けアジアの子ども基金サポーター 2名がティエンアン盲学校を訪問し、英語を教えながら子どもたちとの交流を図りました。

11月末には、2010年度の第1回目となる「輝けアジアの子ども基金」奨学金を給付しました。盲学校での学習活動やスポーツやコンピューターの習得、さらに生徒たちが一般の学校に通うための学費に充てられました。

2010年7月1日の環境ワークショップで視覚障害者の生徒たちの演奏

(2)アンカイン地区・タインミーロイ地区生活改善

【資金:キヤノン㈱、輝けアジアの子ども基金】

タインミーロイ地区。資源ゴミを各家庭から回収している子ども達

2006年から始まったベトナム政府による移転事業により、アンカイン地区の住民は移転先のタインミーロイ地区をはじめとして各地への移転が進められました。アンカイン地区でゴミ分別収集などの活動を進めていた子どもたちはアンカインでの活動を3月まで継続しました。

中心的に活動を進めていたグループが移転先のタインミーロイ地区での活動を開始することになり、30世帯を対象に新たに分別活動を進めました。活動を開始する前には、子どもたちを対象に武術クラスと絵画クラスを開催することを手始めに、アンカインから移転してきた子どもたちがリードしながら各世帯を回って説明し、各家庭ごとにビニール袋や有価物を分別しておいてもらい、子どもたちが定期的に回収して記録して売却し、各世帯に相応の金額を返すことで、ゴミ分別の有用性をアピールしました。

(3)グエン・ヴァントー中学校での環境教育

【資金:三井物産環境基金】

2007年にホーチミン市の教育関係者が日本を訪問した際に、BAJとのつながりができ、第10区人民委員会教育部からの要請で2008年4月からグエン・ヴァントー中学校での環境問題についての授業(週1回)を開始しています。

2010年は、エネルギーの問題として家庭での節電の実践、環境記録表、農村体験、地球温暖化、CO_2の吸収量の計測などについて学習しました。

■学習内容

月	活動内容
1・2月	▶3月以降の環境学習の内容について、学校教員やソーシャルワーカーらとともに打合せ
3月	▶エネルギーの問題についての学習 ▶学校や家庭での節電の実践
4月	▶待機電力について
5月	▶環境記録表の実践
6月	▶環境記録表の実践
7月	▶エネルギー問題についての学習(電気と発電について)
8月	▶エネルギー問題についての学習(新エネルギーについて) ▶農村体験
9月	▶地球温暖化についての学習 ▶身の回りの木について調べよう、身の回りの木の地図をつくってみよう ▶学校での環境イベント
10月	▶身の回りの木のCO2吸収量をはかってみよう
11・12月	▶活動発表会の準備 ▶第3年度の環境学習の内容について、学校教員やソーシャルワーカーらとともに打合せ

農村体験ツアーを学校の先生たちと視察

(4)子ども教室(ばじこ)の運営

【資金:武田資金】

お昼ご飯の残飯から作っている堆肥を観察

2009年9月から進めてきた「ばじこ教室」の活動を進めました。生徒たちの進級による生活時間の変化や新規クラスの開設などがあり、試行錯誤した結果2010年12月時点で以下の通りに時間割が決まりました。

クラス	生徒数	クラス実施日			
		水	木	金	土
Aクラス(2年生)	11人	17:00～19:00	17:00～19:00		9:30～16:00
Bクラス(2年生)	12人	17:00～19:00		17:00～19:00	
Cクラス(年長)	6人	17:00～19:00		17:00～19:00	

6月～8月中旬の夏休み期間中は、朝から夕方までのクラスを開催し、図画工作・科学実験、校外活動などを行いました。校外活動では、公園など身の回りにある水の水質検査や、お弁当の残飯から堆肥を作ったり、お弁当の使い捨てのケースなどのゴミを減らす工夫など、フエやクイニョンで実施している環境改善活動につなげた活動も取り入れました。また、子どもの授業を親に見てもらい、子どもと一緒に作業したりした結果、親子の会話が増え、親からの意見も積極的になってきました。

2 フエ市生活改善

【資金:㈱INAX、三井物産環境基金、キヤノン㈱、輝けアジアの子ども基金】

(1)教育支援

2009年よりフエ市フービン地区の水上生活地域の移転が促進されました。BAJでは用意された移転先の集合住宅(フォンソー地区、フーマウ地区)で、フービン地区から移転してきた子どもたちを中心に地域の子どもたちを巻き込んで、補習クラスと絵画クラスを開始しました。

■各クラスの実施状況

場 所	対 象	実施日
フービン地区 パン工房地域	小学2～4年生 12人	毎週日・木曜日
フオンソー地区 集合住宅1	小学2～5年生 10人(フービン地区第14地区水上生活地域の子どもたち)	毎週水曜日
フオンソー地区 集合住宅2	小学2～5年生 7人(フービン地区第12地区水上生活地域・元ビーザ地区水上生活地域の子どもたち)	隔週水曜日
フーマウ地区 集合住宅	小学2～4年生 11人(フービン地区第14地区水上生活地域の子どもたち)	毎週木曜日

フーマウ地区のクラス。
「自分の家から学校までの通学路で見えるもの」についての絵

フービン地区パン工房地域でのクラス

(2)環境教育活動

フービン地区、フオンロン地区、トゥイビェウ地区、トゥイスワン地区、さらに移転先のフオンソー地区集合住宅とフーマウ地区集合住宅の地域の小学校の児童、農家を対象に環境教育や地域を理解するための活動を進めました。その内容は、生ゴミの回収と堆肥作り、堆肥を利用した野菜の栽培、市場の衛生改善、川のゴミと生き物の調査等を実施しました。

■各地区から参加した対象の学校と学年

場 所	対 象	実施日
フービン地区	ファムゴックタック中学校	2010年3月～8月:6・7年生、 9月～:7・8年生
フオンロン地区	フオンロン小学校	2010年3月～8月:3年生、 9月～:4年生
トゥイビェウ地区	グエンヴァンチョイ中学校	2010年3月～8月:6年生、 9月～:7年生
トゥイスワン地	グエンティミンカイ中学校	2010年3月～8月:6年生、 9月～:7年生

■2010年3月から子どもたちを対象に実施した環境学習や実践活動

月	活動内容
3月	▶地球温暖化についての学習 ▶身の回りの木の地図をつくってみよう ▶ゴミの問題についての学習 ▶学校に落ちているゴミについての調べ学習
4月	▶まわりの草木の葉を調べよう ▶地域に落ちているゴミについての調べ学習 ▶学校での分別用ゴミ箱作り
5月	▶身の回りの木のCO_2吸収量をはかってみよう ▶学校でのゴミ分別活動
6・7月	▶身の回りの樹木の効用や遊び方を調べよう ▶土について調べよう ▶ゴミ減量に向けて包装用に葉っぱを利用しよう ▶利用できる葉っぱ調べ
8月	▶原産国調べ ▶水の問題についての学習 ▶地域の中のきれいな水と汚い水 ▶地域の中の水をどのように人々が利用しているか
9月	▶原産国調べ ▶環境にやさしい農作物の栽培 ▶環境に配慮した伝統工芸品 ▶中秋の名月のイベント ▶学校での環境イベント
10月	▶環境にやさしい農作物の栽培 ▶環境に配慮した伝統工芸品 ▶エコクッキング大会 ▶絵画ポスター作成
11月 12月	▶活動発表会準備

3 クイニョン市環境教育 【資金:三井物産環境基金】

2007年から開始したビンディン省クイニョン市での環境活動では、2010年は、①地域・環境・ゴミ分別活動などをテーマにした絵画クラスと、INAX水環境テキストを使った学習、②ゴミ分別活動、③インターネットを使った情報発信と意見交換、などの事業を継続実施しました。

地域にある池の水質検査や、島で暮らす人と水の関わりを調べたり、またニョンビン地区では、牛の肥育農家からの畜糞を使った堆肥を作り、6月から堆肥を使った野菜づくりを開始しました。ヒヨナ、サツマイモを作付けして子どもたちが成長記録をつけながら、日曜日に観察会を開いて虫捕りや水やりなどの世話をして育てました。さらに、「私たちの周りの環境」をテーマに、地域の地図を作成したり、植物や昆虫の観察をしました。

堆肥を使って無農薬による野菜作り。
子どもたちが野菜の観察記録をつけているところ

地域でのゴミ分別活動

4 環境活動の発表会 【資金:三井物産環境基金】

2010年7月1日、ホーチミン市トイチェ新聞社ビルで、子どもたちの環境活動発表会を開催しました。ホーチミン市のアンカイン地区の子ども4名、グエンヴァントー中学校生徒15名、教員2名、保護者3名、ばじこ教室生徒22名、保護者12名、ティエンアン盲学校生徒10名、教員3名、フエ市からは子ども1名が代表して参加し、総勢72名が集まりました。発表は、ゴミ分別活動と堆肥づくり、堆肥を使った野菜の栽培などについてそれぞれ発表しました。

アンカイン地区の子どもによる活動発表

グェンヴァントー中学校の生徒による活動発表

III 国内活動報告

東京本部 活動報告

TOKYO

2010年 BAJの動き

BAJにとって最大の活動地であるミャンマーでは、今後の体制を決めるための選挙が11月7日に実施されましたが、公示期間中をふくめて許可関係の手続きが滞るようになり、事業実施の遅れや、長期滞在ビザの新たな発給については、まったく見通しが立たない状況で、対応に苦慮しました。とくに人員の補充ができないため、東京から出張ベースでの補強を行いましたが、報告書提出の遅れなど、資金調達にも支障が出ています。

2月、ミャンマーの給水事業を中心的に進めていた木村信夫の急逝により、今後この分野の人材育成が課題となっていますが、適切な後任を補充できていません。

10月22日には、ラカイン州中央沿岸部にサイクロン「ギリ」が襲来し、約26万人ともいわれる被災者を出していますが、ミャンマー政府は選挙をひかえて報道を規制したため、緊急支援のための募金を思うように集めることができず、物資の配布とモバイルワークショップを2度にわたって実施したという程度に終わっています。

ベトナムでは、人員体制の再編成が必要な状況となり、東京での打合せを行いました。

東京本部事務所では、広報の強化を合言葉に、さまざまなプログラムを実施して新しい支援者の開拓に努めましたが、成果を早急に期待することは難しく、2010年の資金獲得については目標を達成することはできませんでした。今後に期待したいと考えます。

数字で見るBAJ東京2010年

2009年度末から開始した、「NGO組織強化のためのアドバイザー派遣制度」を利用し、広報活動の方法を徹底的に見直し、さまざまなイベントを開催いたしました。新たな試みとして、株式会社アルーシャ様やFEELS LIKE ORANGE株式会社様とコラボレーションし、ネイルケア教室や音楽ライブイベントを開催することで、より多くの皆さまにBAJを知っていただく機会を設けました。また、自主企画イベントも多数開催し、ベトナムやミャンマーの文化に触れていただいたり、小さな子どもも参加できる形にするなど、さまざまな工夫をしました。

毎月開催している「BAJカフェ」では、少しでもわかりやすくBAJの事業についてご理解いただけるよう資料を一新し、また、当日のボランティア作業などにも気軽にご参加いただけるよう、簡単にできるものをご用意いたしました。また、BAJカフェ以外の日でもボランティア作業をしていただけるよう、どのようなボランティアを募集しているのか、メールマガジンだけでなく、ホームページやNPO掲示板などに掲載し、随時募集を行いました。

現在までの寄付者数(のべ)	8,450名
2010年度の寄付者数(のべ)	1,330名
2010年度の会員数(2010年度末時点)	179名
2010年度に開催したイベント数	38回
2010年のボランティア人数 (のべ)	104名
現在までに集まったBAJ寄付総額 (2000年～)	50,740,706円
現在までに集まった まるごとサポーター総額 (2006年～)	3,759,584円

1 資金の調達

(1)寄付・募金・会費の拡大

BAJの活動は、多くの方々からの寄付や会費で賄われています。BAJでは2007年より認定NPOとしての承認を取得しており、寄付金は税制の優遇を受けられます。また、気軽に活動に参加していただけるよう、サポーター制度として、①輝けアジアの子ども基金、②BAJまるごとサポーター、の2つのサポーター制度をご用意しました。いずれもご予算に合わせた金額を、毎月指定された口座から自動引き落としさせていただくものです。内容を簡単にご紹介したリーフレットがありますので、事務局までご請求下さい。

事業を指定する寄付として、ミャンマーでは水募金と女性の生活支援募金、ベトナムでは子どもの夢応援募金と障がい児募金の各事業があります。

(2)助成金・補助金

活動を維持するためには資金が必要です。BAJは2010年もさまざまな機関や団体に対して助成金や補助金の申請をしました。また、NGO向けの公的資金のスキームを使って資金の確保に努めました。

■2010年度の主な資金の調達先は以下の通りでした。
(順不同・敬称略)

ミャンマー	外務省／日本NGO連携無償資金協力、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)／委託事業、国連世界食糧計画(WFP)／委託事業、三井住友銀行ボランティア基金、国際協力機構(JICA)／草の根技術協力機構、TOTO株式会社水環境基金／助成金、ワタベウェディング株式会社、ブラン・インターナショナル、国境なき奉仕団、株式会社ローソン、有限会社ブリッジャーズ
ベトナム	株式会社INAX、三井物産株式会社環境基金、輝けアジアの子ども基金、清原資金、キヤノン株式会社、武田資金
BAJ(東京)	株式会社ビロタス、特定非営利活動法人ケアセンターやわらぎ、特定非営利活動法人ミャンマー総合研究所、株式会社ダイナックス、株式会社ピースインツアー、国際航業株式会社、学校法人城西国際大学、有限会社アルスコーポレーション、岐阜長良川ロータリークラブ、株式会社日本開発サービス、WAVE、学校法人静岡日本語教育センター、株式会社エヌエルシー、ワタベウェディング株式会社、株式会社ソーワコンサルタント、有限会社峰秀興業、株式会社大木組、ブリッジャーズ有限会社、株式会社アクティシステム、特定非営利活動法人チャリティー・プラットフォーム、キャピタル工業株式会社、富士ゼロックス株式会社、富士ゼロックス端数クラブ、BAJまるごとサポーター

(3)緊急救援募金

10月22日から23日の未明にかけてミャンマー南西部ラカイン州に襲来したサイクロン「ギリ」では、約26万人が被災しました。BAJでは緊急救援募金を日本で開始しましたが、国内での報道が極端に少なかったため思うように救援資金を集めることができませんでした。

それでも2011年2月末までに、総計1,012,300円が集まり、緊急救援物資の配布、2度にわたるモバイルワークショップによる活動を進めることができました。

この経験からBAJでは、政府と民間企業とNPOがパートナーシップを組んで緊急人道支援に取り組んでいる団体であるジャパンプラットフォーム(JPF)への加入を決め、2011年4月から正式なメンバーになりました。

被災直後のンガメーピン村

塩水を被ったエンジン修理のため、
モバイル・メカニカル・ワークショップを開催

2 広報活動

(1)情報の発信

支援者への報告として大切な『BAJ通信』を偶数月の月末に発行しました。各号の印刷部数1,500部のうち、会員約200部、支援者約500部、贈呈約400部を発送しました。また、2010年9月にホームページをリニューアルをしました。そのほか、「年次報告書」「リーフレット」などを随時発行しました。

即効性のある情報提供ができるインターネットを活用して、「BAJメールマガジン」や、駐在員や東京スタッフのブログ、ツイッターなど頻繁に更新し、BAJの活動広報に努めました。また、ネット上にあるボランティアの情報サイトを活用して報告会やキャンペーンなどの告知や寄付受付を積極的に進めました。さらに、プレスリリースを出すことで新聞記事掲載につなげる努力をしました。

2010年2月に亡くなった技術部長・木村信夫の追悼文集『偲ぶ』を作成し、これまでお世話になった関係者ならびに関係機関に配布しました。

(2)報告会・講演・イベントなど

BAJ主催として、スタッフによる報告会やイベント、また依頼による講義、セミナー講師、外部イベントへの出展など積極的に受けてBAJの広報に努めました。また講師を招いての勉強会など2010年も広報を兼ねた報告を行いました。BAJの報告会では、ロールプレイによるワークショップ形式の報告会も、活動の理解という点で大きな成果がありました。

行政や地方自治体、他団体や学園、企業が実施するイベントにも可能なかぎり出展したり、支援者が自主企画として出展し、BAJの広報をしていただくことがありました。このような繋がりを大切にしていきたいと考えています。

(3)キャンペーン

毎年、募金キャンペーンとして「夏募金」と「お年玉募金」の2回寄付をお願していますが、2010年はイベントと組み合わせたキャンペーンを行い、もう一つの目標として新しい支援者の開拓をテーマにしました。

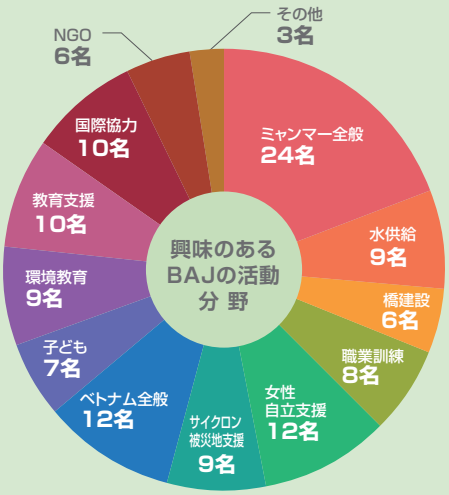
7月～9月に実施した夏募金では、テーマを「仕事ができるって幸せ!ミャンマーの働く女性応援キャンペーン」として、さまざまなイベントと組み合わせたキャンペーンを行いました。ご協力いただいたのは「アジア・アフリカ布フェア」、「チャリティーネイルケア」「モクチョーイ委託販売」「BAJカフェ出展」「LIVE　ORANGE」の各ドナーでした。

11月～2011年1月に実施した「お年玉キャンペーン」では、「学校って楽しい!子ども応援冬募金」のテーマで、「ジェルネイル教室」を2回開催したほか、東京おもちゃ美術館と組んで「くまのばじろー・ぬりえコンテスト」を行いました。この経験を通じて、多くの協力者と出会うことができました。

ぬりえコンテストにはたくさんご応募いただきました!

ワークショップでは、村人の気持ちになって井戸管理についてディスカッションした

コラム アンケート結果
～皆さまからの声を通じてわかったこと～



2011年4月末発行の「BAJ通信97号」に同封して、BAJ支援者の皆さまにアンケートをお送りいたしました。アンケートの目的は、支援者が、どのようにBAJを選び、なぜ継続して下さっているのかを、より深く理解することでした。お声をいただくことで、すでにご支援いただいている皆さまへどのようなご報告ができるかを再検討し、さらに多くの方々からご支援いただくための参考にし、今後の支援者拡大につなげていくことを目標としています。ご回答いただいた皆さま、ご協力いただきありがとうございました!

BAJ会員・サポーターを継続する理由について

知人の紹介	20名
ホームページ	9名
NPO情報の掲示板	2名

BAJを初めて知った理由として、20名の方が知人の紹介を挙げていました。また、ホームページやNPO情報の掲示板、ブログなど、WEBを通してBAJについて知った方は11人でした。

会員・サポーターになったきっかけ? 寄付をしたきっかけ?

	会 員	サポーター	寄 付
知人の紹介で	7名	2名	0名
団体の趣旨に賛同した	1名	0名	1名
現地の現状を見て	1名	1名	1名
特定国・地域を支援したい	2名	0名	5名
特定分野を支援したい	0名	2名	3名

	会 員	サポーター	寄 付
先の長い活動／きめ細かい活動ができそうだ	1名	0名	1名
もともと団体と関わりがあった	2名	0名	1名
自身の励みになる・現状に合う	0名	2名	0名
寄付の募集が BAJから来る	0名	0名	3名

会員とサポーターを合わせると、圧倒的に「知人の紹介」が多く、これはBAJの活動をより理解していただいている結果だと考えています。寄付者の場合は、特定の地域や国、活動分野に関心があるようです。

◆「支援内容と水環境と教育普及に取り組んでいるため。」（寄付者／男性）

◆「困っている方々、アジアの方々の役に立ちたい。」（寄付者／女性）

支援の継続についてお伺いしました!

	会 員	サポーター
継続が重要だと思うから	3名	1名
現地の災害を見て	1名	0名
報告を見て	3名	0名

	会 員	サポーター
団体に共感したから	1名	0名
役に立ちたいから	5名	3名
その他	0名	1名

会員とサポーターに、支援の継続についてお伺いしたところ、「継続した支援が重要だと思う」が4名、「役に立ちたい」が8名でした。
ご寄付の場合、会員やサポーターのように定期的な支援ではないものの、これからも資金や生活状況が許す限りは続けたい、とご記入いただいています。

◆「支援は短期的なものではあまり意味はないと思います。長期にわたって少しずつでも支援することで、安定性のある活動ができると思っているため。」（サポーター／女性）
◆「継続的なサポートが大切であると感じているから。」（会員／男性）

「報告」について

◆「無理の無い範囲で、ミャンマーやベトナムの最新情報について、現地に滞在されている方々からのレポートを頂ければ、とても嬉しいです。」（50代／男性）
◆「HP・メルマガ（両者の連携）の充実。よりタイムリーな情報発信メディアとして質、量ともに拡充していってはどうでしょうか。」（40代／男性）

コメントで多かったのは、BAJ通信などの「報告」についてでした。
ご支援いただいている皆さまにとって、最も重要なのは「報告」することである、ということを再確認いたしました。集まった資金をどのように活用し、どのような効果があったのか、これからも丁寧に報告していきます。
ウェブの利用者が増えており、ホームページやメルマガ、ブログなどでの情報発信を増やしてほしいというお声をいただきました。報告会開催やイベント情報などはホームページでお知らせしたり、毎月1回メールマガジンを発行してお知らせしています。他にも、ブログやツイッターなどで現地からの便りをアップしています。今後はさらに、ウェブをより積極的に活用していこうと思います。

※今回は、156名の会員、496名の寄付者の皆さま（合計652名、男女比・年齢比不明）にアンケートを同封するか、WEBを通じてお答えいただきました。合計40名の方からご返答いただき、回答率は6%でした。

3 団体の運営

(1)国別の計画策定

BAJの特徴を生かし、効果的に事業を推進するために、さまざまなレベルでの会議を実施しました。

ミャンマーでの中・長期的事業の計画策定のため8月に3日間かけて、ヤンゴンでマネジメントチーム会議を実施し、中期計画と行動指針について審議しました。また、10月に2日間かけて技術系のローカルスタッフを対象に、BAJの現場が抱えている技術的な問題を検討する「技術セミナー」を実施しました。

ベトナム事業の中期計画について、12月にスタッフを日本へ招へいし、今後の事業計画の進め方について話し合いをしました。

各事業地のリーダーが集まって、会議を開催

マネジメント・チーム・ミーティングに集まった参加者たち

(2)ネットワーク

行政機関やNGOが実施する会議に積極的に参加し、事業環境の整備や政策提言に関わりました。また、緊急支援の資金提供を行っているジャパン・プラットフォームへの加入も検討し、2011年4月から正式メンバーとなりました。

■2010年に参加した主なネットワーク

内　容	主催団体
JANIC国際協力NGOセンター	国際協力活動を実施するNGO団体の連合体
J-FUN定期協議会	UNHCRと連携して事業を実施する団体のテーブル
CSR推進NGOネットワーク研究会	JANIC主催の、NGOと企業のテーブル
シーズ=市民活動を支える制度を作る会	国際協力だけでなく福祉や町づくりなど幅広いNGO団体の連合体で、政策提言を行なう
外務省NGO連携推進委員会	外務省とNGOのテーブル
JICA-NGO協議会	JICAとNGOのテーブル

(3)人材育成

国際協力を実施する団体にとって、職員をはじめ国際協力に関心を持つ人たちを対象に、セミナーや講義など研修の機会を作り、理解者を増やしていくことや、他団体の主催する報告会や交流会などに参加することで、ネットワークを広げていくことも大切な仕事であると考えています。BAJは2010年も機会をとらえてスタッフの研修に多くの時間を割いています。

また、インターンやボランティアを受入れ、BAJの活動内容や国際協力の仕事の理解を進めました。

海外の事業現場で必要と判断した場合は、日本から適切な専門家を派遣して指導やアドバイスを受けました。

コラム 多様なパートナーシップのかたち

ミャンマーの子どもたちが安心して通える学校を再建！

プラン・インターナショナル

2008年からミャンマー・デルタ地帯を襲った大型サイクロンによる復興支援事業をプラン・インターナショナルと進めています。これまでに損壊を受けた小学校や中学校などの学校校舎を約49校再建・修繕しています。今後の災害に備え防災教育も実施しています。

▶http://plan-international.org/

完成した学校では防災教育も行います

ミャンマーの乾いた大地に命の水を！

ワタベウェディング 株式会社

2007年から継続してご支援していただいているワタベウェディング㈱は、水不足が深刻なミャンマー中央乾燥地域で深井戸を毎年2、3本掘り、井戸の修繕も行なっています。2010年には井戸以外にも、社員の皆様と渡部会長のご寄付により、タウンシェ小学校を建設しました。

▶http://www.watabe-wedding.co.jp/

小学校のオープニングセレモニー

「環境教育」を通じて、地域を考えるベトナムの子どもたち

株式会社 LIXIL

2007年4月から㈱LIXIL（旧㈱INAX）とパートナーシップを組み、ベトナムの子どもたちを対象に環境教育活動を進めています。環境教育テキストの共同制作や講師派遣などで㈱LIXILがもつ環境についてのノウハウをご提供していただき、子どもたちは実体験を通じて環境や自分たちが住む地域について考えていきます。

▶http://www.lixil.co.jp/

ろ過の授業を通じて、水の大切さを学ぶ

音楽を通じてBAJの活動を支援！

FEELS LIKE ORANGE株式会社

ミレニアム開発目標（MDGs）を応援するFEELS LIKE ORANGE㈱主催の音楽イベント「LIVE ORANGE」が2010年3月、5月、9月に開催されました。多数のアーティストの方々や開催カフェ・バーのご協力を得て、入場料の「お気持ちのご寄付」をBAJにご寄付いただきました。

▶http://ameblo.jp/liveorange/

音楽を楽しみながら、MDGsを応援！

団体概要・名簿・組織図　2011年5月末現在

団体概要

正式名称	特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン
英語名	Bridge Asia Japan
代表理事	根本　悦子
設立	1994年11月
法人格取得	1999年12月
認定NPO法人取得	2007年3月
事務局有給職員数	13名(非専従職員を含む)

職員名簿

東京本部

根本 悦子	理事長
大津 祐嗣	事務局長補佐
平井 さつき	海外事業担当
大須 真希	総務・経理担当
高橋 麻子	国内事業担当
沼田 京子	国内事業担当
山木　聡	国内事業担当
新石 正治	国内事業担当

ミャンマー

束村 康文	常務理事 (チャウパドン事務所/ プログラム・マネジャー)
森　晶子	ミャンマー駐在代表 (ヤンゴン事務所)
辻 富紀夫	シニア・ プログラム・マネジャー (マウンドー事務所)
簑田 健一	テクニカル・ディレクター

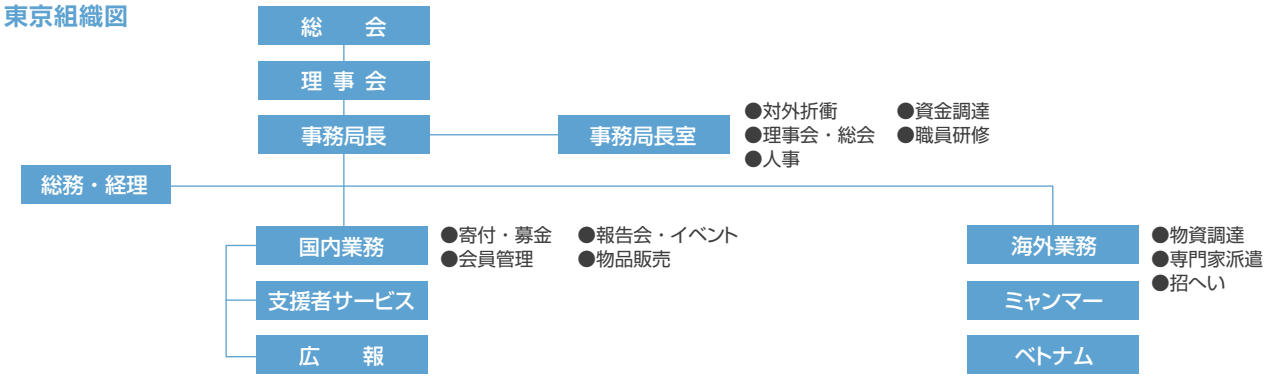
ベトナム

フィン ホゥイ トエ	連絡員
片山 恵美子	連絡員

BAJ 役員名簿

理事長	根本 悦子	東京都府中市
理事	束村 康文	ミャンマー国ヤンゴン
理事	足立 房夫	東京都文京区
理事	石川 治江	東京都立川市
理事	石橋 富士子	東京都世田谷区
理事	大木 真知子	東京都府中市
理事	鎌田 逸子	東京都府中市
理事	北脇 秀敏	東京都武蔵野市
理事	熊岡 路矢	神奈川県川崎市
理事	西来路 秀彦	東京都小金井市
理事	田中 美知子	東京都練馬区
理事	佃　吉一	東京都板橋区
理事	中西 由起子	東京都八王子市
理事	前川 昌代	東京都渋谷区
理事	松原　明	東京都中野区
理事	簑田 健一	タイ国バンコク
監事	高塚 直子	東京都渋谷区

東京組織図



BAJの活動年表　1993年～2011年

1982年	11月	● ベトナム戦争激戦地のクーチに、新石正弘が生活支援用の発電機を寄贈
1990年	7月	● ベトナム・ホーチミン市第8区のヒーボンろう学校へ米などを支援
1992年	5月	● ベトナム・ハイフォン市、ハノイ市、ホーチミン市の環境公社を調査し、日本の自治労から中古ゴミ収集車を提供してもらえるように交渉
		● 日本の鹿沼市、逗子市から中古ゴミ収集車の寄贈受け、ベトナム各都市に送る
1993年	7月	● ベトナム・ハイフォン市環境公社代表団を受入れ、日本での研修を実施
	11月	● 国際協力NGO「インドシナ市民協力センター」設立（代表＝熊岡路矢、事務局長＝新石正弘）
1994年	5月	● 自治労の大阪、京都、神戸の協力で、ベトナム13地方都市に中古ゴミ収集車両29台を寄贈
		● ホーチミン市、ハノイ市、ハイフォン市のゴミ処理の調査を実施
	10月	● 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の要請により、ミャンマー・ラカイン州での帰還民定住促進事業の可能性調査を行ない、事業実施を決定
	11月	● 名称を「ブリッジ　エーシア　ジャパン」に変更
1995年	1月	● ミャンマー国ラカイン州北西部のマウンドーで、UNHCRの事業実施団体として、難民帰還事業への協力を開始。職員を派遣し、ヤンゴン事務所を開設。代表を根本悦子に交代
	2月	● ベトナム・フエ市の環境問題行政担当者を招へいし、日本での視察、市民団体との交流を実施
	10月	● ミャンマー・マウンドーにBAJ技術センター完成、青年30名を対象に自動車修理技術訓練コースを開始、11月からは帰還民も対象に単気筒修理コースを実施
1996年	2月	● BAJ第1回会員総会を開催、同時にミャンマーでの活動報告会も実施
	5月	● ベトナム障害児教育の関係者2名を招へいし、日本での研修を実施、フィリピン・バカロットのコミュニティーベースドリハビリテーション（CBR）も視察して報告会を開催
1997年	2月	● ミャンマー・マウンドーのワークショップで、難民定住促進のための車両修理、職業訓練を開始、また地域青年の雇用機会創出と所得向上のための職業技術訓練コースを実施
		● マウンドーの2か村で住民参加による実地訓練（OJT方式）による学校校舎の建設を実施
	5月	● ベトナム・障害児支援として中古点字印刷機をホーチミン市障害児教育センターに寄贈、日本から関係者8名がベトナムを訪問
1998年	5月	● ミャンマー・BAJ技術訓練コース修了者の収入向上を目的に、BAJレンタルショップを開設、灌漑用ポンプ、耕運機、脱穀機、サイカー等を貸し出す
	8月	● ベトナム視覚障害者支援の支援として桜雲会と協力して日本からの講師派遣による「マッサージセミナー　5カ年計画」の実施を決め、第1回をホーチミン市、ダナン市で開催
		● ミャンマー・マウンドー南部の2か村で橋梁建設工事を開始
1999年	1月	● ミャンマー・マウンドーで女性の自立支援を目指した長期裁縫技術訓練コースを開始
	4月	● ミャンマー国中央乾燥地域で、生活用水供給事業を開始することとし、ミャンマー国境民族開発省（DDA）と覚書を結び調査を開始、地下水調査の専門家を派遣
	12月	● 「特定非営利活動法人」格取得について、東京都より正式に認証を受ける
		● バガン地域のニャントウ村で、第1号井戸を掘削
2000年	6月	● ミャンマー・バガンでの生活用水供給事業がJICA開発パートナー事業として採択される
2001年	3月	● ベトナム事業で、現地駐在連絡員をホーチミン市に派遣、日本国際協力銀行（JBIC）委託調査
		● 「ベトナムの高等教育・大学教員の現状と問題点」をまとめてJBICに提出
	9月	● ミャンマー・シトウェにBAJ技術訓練学校を開校、1期生92名による半年間のコース開始
2002年	6月	● 難民事業本部のスリランカ国内避難民現地調査により、スリランカでの事業開始について検討
	10月	● スリランカ・コロンボ事務所を開設、事業開始にむけて準備を開始
	11月	● ベトナム・ホーチミン市第2区アンカイン地区で、ゴミリサイクルのパイロットプロジェクトを開始
2003年	1月	● スリランカ北部のLTT（タミル・イーラム解放の虎）支配地域で復興支援事業を開始
	8月	● ベトナム・ホーチミン市アンカイン地区で、貧困層を対象にマイクロクレジットによる収入向上プログラム・貯金活動を開始
	9月	● 外務省委託事業「国別NGO研究会（スリランカ）」を受託
	11月	● BAJ設立10周年でチャリティーコンサートと記念の集いを実施
2004年	6月	● UNHCRの要請によりミャンマー南東部タイ国境地域の56か村で生活用水供給事業を実施
	9月	● ベトナム貧困層の就学支援を目的に「輝けアジアの子ども基金」を創設、支援者拡大を図る
	12月	● 26日、インド洋スマトラ島沖地震発生、スリランカ南部の津波被害を受け、緊急救援と復興支援活動を開始
2005年	5月	● ミャンマー・ラカイン州アングモにアングモ桟橋を完成、シトウェまで30分で行けるようになる
	6月	● 中央乾燥地域での生活用水供給事業について、拠点を現場に近いチャウパドンに移転
		● スリランカ復興支援事業で生活協同組合と共同でレンタルショップを3か所に設置
	12月	● スリランカ情勢が不穏となり、事業からの撤退を検討してきたが、キリノッチでの活動を終了して施設などを地元県知事に引き渡した
2006年	1月	● ミャンマー・シトウェBAJ技術訓練学校として最後となる第7期コースを開始、カウンターパートへの引き渡しの準備を進める
	2月	● ミャンマーのアングモ桟橋と橋梁の引渡式を盛大な式典を開催
	10月	● 新たな寄付システム「BAJまるごとサポーター」制度を創設、メンバー募集を開始
		● JICA技術協力プロジェクト「ミャンマー国中央乾燥地村落給水技術プロジェクト」が採択され、国際航業と組んで3年間の事業を開始
	11月	● 輸入許可申請から1年以上経て許可が降り、ワタベウェディング㈱の資金提供による掘削機ワタベ号と機材一式がミャンマーへ到着、スタッフ研修を経て第1号井戸を掘削
2007年	3月	● 3月1日より2年間、認定NPO法人として承認される
	7月	● ミャンマーでの活動に対し、日本の「外務大臣表彰」を受ける
		● コロンボ事務所を閉鎖、スリランカでの全事業を撤収
2008年	4月	● ベトナム・ホーチミン市中学校で環境教育の活動開始
	5月	● ミャンマー南部デルタ地帯に大型サイクロン「ナルギス」が上陸、緊急救援活動として救援物資の配給、学校の修復・再建活動、耕転機エンジンを修理するモバイル・ワークショップを実施
		● プランインターナショナルの資金によりサイクロンで損壊を受けた学校校舎の修復・再建事業を開始、同時に防災教育も実施
	10月	● ミャンマー・井戸建設でBAJのポンプ操作研修を受けた村人によるローカルメンテナンスチームを再結成し、修理に必要な大型三脚組み立てなどを開始
		● ベトナムの環境教育で三井物産環境基金の資金獲得、3年間の事業資金を確保
2009年	2月	● 29日　事務局長の新石正弘が死去、6月に著書による『アジアに架ける橋』をコモンズより出版
	3月	● ミャンマー・マウンドーで最貧困層の村を対象にサンレイズ・プロジェクトを開始
	10月	● JICA技術協力プロジェクトが終了し、ミャンマー・ニャンウーで最終技術セミナーを開催、その後ネピドーでセミナーとセレモニーを開催
	11月	● 中央乾燥地域の井戸設置したモンダイン村に個人寄付による学校校舎を建設
	12月	● ベトナム・ホーチミン市に放課後の時間を活用した「ばじこ教室」を開設
2010年	2月	● 10日　技術部長の木村信夫が急逝
	6月	● サイクロン・ナルギスによるデルタ地域での学校修復・再建事業について、本拠地をモールミャインジュンからラブタに移動して継続
	10月	● ミャンマー西部に大型サイクロン「ギリ」が上陸、救援物資の配給とモバイル・ワークショップ実施、報道規制のため資金調達が進まなかったためJPFへの加入を検討
	12月	● 2009年から進めていたマウンドー南部にシュウェザー橋が完成
2011年	3月	● 東日本大震災についてBAJも緊急支援活動を開始することを決め、被災地の現地調査を開始
		● 岩手県大船渡市、陸前高田市の炊き出し支援を行なうこととし、4月加入のJPF資金を調達
	5月	● デルタ地域で実施してきたナルギスによる学校校舎の修復・再建事業は5月末で、開始した2008年5月から1校を残して65校となった

2010年会計報告

活動計算書（自2010年1月1日～至2010年12月31日）

【経常収益】

（単位：円）

1. 受取会費(注1)		1,978,809	1,978,809
2. 受取寄付(注2)		33,503,837	33,503,837
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	23,575,498	141,156,432
	受取補助金(注3)	117,580,934	
4. 事業収益		9,994,124	9,994,124
5. その他収益		73,401	73,401
経常収益計(A)			186,706,603

【経常費用】

（単位：円）

1. 事業費	人件費	65,058,420	244,021,571
	その他経費	178,963,151	
2. 管理費	人件費	30,601,490	44,936,854
	その他経費	14,335,364	
経常費用計(B)			288,958,425

当期正味財産増減額(A)-(B)	-102,251,822
前期繰越正味財産額(C)	180,255,318
次期繰越正味財産額(A)-(B)+(C)	78,003,496

注1　受取会費内訳　（単位：円）

個人会費	1,528,809
団体会費	450,000
受取会費計	**1,978,809**

注2　受取寄付・受取助成金内訳　（単位：円）

BAJ寄付	10,949,353
まるごとサポーター	893,508
ミャンマー寄付	42,179,397
ベトナム寄付	1,899,077
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)	1,158,000
受取寄付・受取助成金計	**57,079,335**

※主な寄付先は「国内活動報告1と資金の調達 (2) 助成金・補助金」にある表をご参照ください。

注3　受取補助金内訳　（単位：円）

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	
・ミャンマー / ラカイン州における技術ワークショップ及びインフラストラクチャー事業	81,094,414
・ミャンマー / 南東地域における復興・給水施設建設事業	32,494,831
国連世界食糧計画(WFP)	
・ミャンマー / ラカイン州北部における脆弱者層の生活改善	2,624,835
外務省	
・インターン・プログラム制度	1,366,854
受取補助金計	**117,580,934**

事業別損益の状況

科　目	ミャンマー ラカイン州北部地域開発事業	ミャンマー 中央乾燥地域における生活用水供給事業	ミャンマー 南東国境事業	ミャンマー デルタ地域サイクロン被災地復興支援事業	ミャンマー ヤンゴン事務所	ベトナム事業	国内事業	管理部門	合　計
Ⅰ 経常収益									
1受取会費	0	0	0	0	8,809	0	0	1,970,000	1,978,809
2受取寄付金	4,782,754	13,201,771	0	1,420,599	793,398	1,462,454	0	11,842,861	33,503,837
3受取助成金等									
受取助成金	1,262,100	0	0	20,718,775	0	1,594,623	0	0	23,575,498
受取補助金	83,719,249	0	3,249,4831	0	0	0	0	1,366,854	117,580,934
4事業収益	1,310,708	2,439,989	0	0	364,124	312,118	4,686,198	880,987	9,994,124
5為替差益	0	0	19,385	485,742	390	0	0	0	505,517
6その他収益	1,024	0	0	0	0	7,931	0	64,446	73,401
経常収益計	91,075,835	15,641,760	32,514,216	22,625,116	1,166,721	3,377,126	4,686,198	16,125,148	187,212,120
Ⅱ　経常費用									
(1)人件費									
給与手当	29,425,142	11,948,240	9,484,953	6,925,645	261,378	7,013,062	0	20,761,674	85,820,094
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	4,585,032	4,585,032
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	0	5,254,784	5,254,784
人件費計	29,425,142	11,948,240	9,484,953	6,925,645	261,378	7,013,062	0	30,601,490	95,659,910
(2)その他経費									
資機材費	46,959,399	29,657,760	23,995,796	32,687,068	11,089	1,407,896	0	0	134,719,008
広報印刷費	0	0	0	0	16,806	82,979	0	2,591,765	2,691,550
旅費交通費	965,738	2,869,455	1,667,877	2,029,385	-28,477	1,242,837	0	1,443,846	10,190,661
通信運搬費	659,976	1,095,781	1,084,668	294,665	32,203	193,702	0	1,123,227	4,484,222
消耗品費	1,041,447	714,835	537,847	438,161	137,155	284,699	0	972,792	4,126,936
修繕費	2,484,699	1,205,853	781,698	339,572	37,748	0	0	0	4,849,570
賃借料	1,127,944	1,588,363	3,176,747	1,028,461	0	1,435,921	0	5,307,740	13,665,176
減価償却費	0	2,775,991	0	0	0	0	0	0	2,775,991
保険料	795,081	383,277	364,428	130,499	245,156	402,670	0	81,280	2,402,391
調査研究・研修費	21,715	56,941	72,147	0	8,743	488,207	0	94,026	741,779
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	70,750	70,750
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	72,000	72,000
支払手数料	181,481	107,944	37,911	147,634	-105	16,000	0	415,282	906,147
為替差損	1952,035	2,808,852	0	0	709,556	764,920	0	3,999,922	10,235,285
雑費	59,387	291,907	0	733,819	510,655	5,573	0	271,225	1,872,566
その他経費計	56,248,902	43,556,959	31,719,119	37,829,264	1,680,529	6,325,404	0	16,443,855	193,804,032
経常費用計	85,674,044	55,505,199	41,204,072	44,754,909	1,941,907	13,338,466	0	47,045,345	289,463,942
当期経常増減額	5,401,791	-39,863,439	-8,689,856	-22,129,793	-775,186	-9,961,340	4,686,198	-3,092,0197	-102,251,822

貸借対照表（2010年12月31日現在）

【資産の部】

（単位：円）

流動資産	現金預金	現金	454,922	92,414,157
		流動性預貯金	63,412,112	
		ミャンマー現預金	22,318,010	
		ベトナム現預金	3,693,786	
	棚卸資産	商品	239,193	
	その他流動資産	立替金	461,605	
		未収入金	1,442,278	
		前払金	382,963	
		仮払金	9,288	
固定資産	有形固定資産	機械装置	3,862,308	5,176,596
	投資その他の資産	敷金	1,314,288	
資産合計				97,590,753

【負債の部】

（単位：円）

流動負債	未払金	423,959	15,612,292
	未払法人税	113,800	
	未払消費税	56,000	
	前受会費	90,000	
	前受助成金	11,927,832	
	前受補助金	2,031,238	
	預り金	962,855	
	仮受金	6,608	
固定負債	退職給付引当金	3,974,965	3,974,965
負債合計			19,587,257

【正味財産の部】

（単位：円）

前期繰越正味財産	180,255,318
当期正味財産	-102,251,822
正味財産合計	78,003,496
負債及び正味財産合計	97,590,753

監査報告書

特定非営利活動法人　ブリッジ　エーシア　ジャパン（BAJ）の2010年度の決算について、事業は適切に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、会計原則に基づいて作成され、監査の結果、相違ないことを認めます。

2011年 3 月 7 日

監事 高場直子

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日NPO法人会計基準協議会）によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

（1）固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

（2）引当金の計上基準

・退職給付引当金

スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末自己都合要支給額から中退共制度の支給見込額を控除した団体負担見込額を計上しています。

（3）消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

2. 使途等が制約された寄附金等の内訳

（単位：円）

内　容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	残　高	備　考
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州北部における技術ワークショップ及びインフラストラクチャー事業	1,032,668	82,422,391	81,903,722	1,551,337	事業期間 2010年1月1日～2010年12月31日
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・南東地域における復興・給水施設建設事業	427,935	30,766,358	30,714,392	479,901	事業期間 2010年1月1日～2010年12月31日
国連世界食糧計画/ミャンマー・ラカイン州北部における脆弱者層の生活改善事業	0	1,047,128	1,902,785	-855,657	事業期間 2010年6月1日～2010年12月31日
プラン・インターナショナル/ミャンマー・エヤワディ管区サイクロン被災村における学校再建・修繕事業フェーズ4-GNO	-126,567	8,414,000	4,079,978	4,207,455	事業期間 2010年10月29日～2011年5月15日
三井住友銀行ボランティア基金/ミャンマー・ラカイン州北部における助成自立グループ育成プロジェクト	0	1,000,000	382,758	617,242	事業期間 2010年10月1日～2011年3月31日
渡部隆夫/ミャンマー・中央乾燥地域における生活用水供給事業	0	5,000,000	1,629,904	3,370,096	事業期間 2010年11月1日～2011年10月31日
三井物産株式会社環境基金/ベトナム・実践的環境教育活動の普及および関係主体のネットワーキング形成事業	6,154,762	7,815,000	7,092,062	6,877,700	事業期間 2010年10月1日～2011年9月30日
株式会社INAX/ベトナム・環境教育	135,023	1,500,000	792,346	842,677	事業期間 2010年4月1日~2011年3月31日
外務省/NGOインターン・プログラム	0	1,366,854	1,369,629	-102,775	プログラム期間 2010年6月14日~2011年3月31日
	7,623,821	139,331,731	129,867,576	17,087,976	

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科 目	財務諸表に計上された金額	うち役員及び近親者との取引
（活動計算書）		
受取会費	1,978,809	300,000
受取寄附金	33,503,837	386,315
管理費 広報印刷費	2,591,765	11,340
管理費 賃借料	1,123,227	1,200,000
（貸借対照表）		
敷金	1,314,288	1,314,288
	40,511,926	3,211,943

（単位：円）

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071東京都渋谷区本町3-39-3ビジネスタワー4F
TEL:03-3372-9777　FAX:03-5351-2395
E-mail:info@baj-npo.org　http://www.baj-npo.org/

郵便振替口座 00130-739924　口座名 ブリッジエーシアジャパン